



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

 ラジェンドラ・K. サバー
 1991~1992年度 R I 会長

会員増強月間

1992. 3. 27 (金) 第214回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「手に手つないで」
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食 事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 会員卓話
9. 点 鐘

第213回例会記録

(1992. 3. 13)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん今日は、本日は第213回例会です。

本日は「対等関係に不慣れな日米」というテーマで、東京女子大猿谷 要教授の論文で、歴史をお話し申し上げたいと存じます。

今日我が国にとりまして最大かつ重大な関心事は、日米関係ではないでしょうか。そして、確かに一つの転機にさしかかっているのは事実であります。1985年以来アメリカ（以下USAと略記）は債務国となり、日本の現在の首相のいわゆる「知的水準」に始まる発言に対しUSA人政治家をいら立たせ、89年には東西の冷戦の終結、その間USAの対日貿易赤字は累積する一方で、日本に対する最大の債務国となり、91年にはソ連邦の解体等これだけ続けば、日米関係が変化することは当然かと思われれます。日米関係の歴史を振り返って見ますと、

嘉永5年（1852年）、最初にペルー艦隊が4隻の黒船を率いて浦賀に上陸し、日米和親条約（2年後）を結んだのが始まりで、以来今日まで139年を経過しておりますが、第2次大戦から約47年経っておりますので、この方は全体の約1/3に相当するわけです。これだけ長い歳月を経ているわけでありまして、変化がないということ自体むしろ不自然と考えられます。

ところが、人間は残念ながら心理的な惰性が強く、大きな変化について行けないところがあります。先ずUSA側の方から考えて見ますと、かつて日本を敗北させ、国土を灰とした体験を持つ年齢層の人達が沢山いる関係もありまして、はじめは、日本が物質的にも経済的にも繁栄して行くことが信じられず、それが本当だと解ると、称賛、敬意、好意等から嫉妬、敵意に至るまで、人さまさまな感情が湧上るものなのです。

ここで注目しなければならないのは、過去を知っているUSAの人で、日本人を「息子」と思っていた感覚から抜け出すことは、かなり難しいのではないのでしょうか。そのうえ、多くのアメリカ人は何事によらず自国が世界第一だと考えたりします。しかも何十年も続いた米ソ冷戦では相手を解体させ、湾岸戦争では輝かしい勝利を収め、日本を上から見下す感覚は今だに消えていないわけでありまして。

一方、日本の方はどうかと見ますと、これまで全く「タテ」の上下関係でとらえる習性が身について、明治以来一世紀あまりただ欧米を頭上の存在と仰ぎ見て追っかけてきました。

上下だけ見てくると、「真ヨコ」の対等という感覚に欠けることになったわけでありましてここで考えなければならないことは、計算という感覚に不慣れな日本人と、USA人が手さぐりでつまづきながら歩き出したと言っよいのではないのでしょうか。しかし、現状認識も人によってさまざまでありまして、冷戦が終了直後多くの人がUSAの勝利を信じていたが、今では、本当に勝ったのは日本だったと思われはじめています。

以上のような状態から、今後日米関係は心理的な要素が大切な役割を帯びてくるであろうと思われると共に、長い歳月仮想敵国を持つことに慣らされたUSA人にとって、消えてしまったソ連に代り、いとも簡単に日本をその座に坐らせようとするのでありまして、この点大いに注意を要するわけですが、日本としましても相互理解に努め、グローバル・パートナーシップの精神に則り、対等の感覚を磨くと共に、今後不自然の状態から開放されたUSAは、日本にはない多様性を持った巨大な力強さをもって世界のリーダーとしての役割を担うことはもちろんのことですが、幸い私達はロータリアンとして、その任務は直接、間接を問わず、じかに結び付いた関係であります。そしてUSAは、ロータリー発祥の地でもあります。国際理解と親善につきましては、何が可能なものなのかを模索しながら一つ一つを現実なものとして努力していくことが大切であると思います。

次は「ローターアクト」についてです。

実は、3月13日は“世界ローターアクト記念日”に当たります。社会奉仕の一部門に相当しますが、この制度は提唱ロータリー・クラブの近隣地域内に居住、就職または就学している、18歳から29歳までの青年によって構成されその目的は、青年男女が個々の能力の開発に当って役立つ知識や技能を高め、それぞれ地域社会における物質的、あるいは社会的なニーズと取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人

人の間によりよい信頼関係を推進するための機会を提供することにあります。

目標としては、次のことを掲げています。

1. 専門技術及び指導能力を開発すること。
2. 個人の価値を認める考え方に立脚して、他人の権利を尊重する観念を養うこと。
3. すべて有用の職業は、社会に奉仕する機会であるとして、その品位と価値を認識すること。
4. 指導者としての資質という面でも、職業上の責務を遂行するという面でも、道徳的基準が大切であることを認識し、実践推進すること。
5. 地域社会と世界各地のニーズ、問題、機会に対する知識と理解を深めること。
6. 地域社会に奉仕し、かつ、国際理解と全人類に対する善意を推進するために、個人として、また、団体として活動する機会を提供すること。

幹事報告 代理 田村 勝二

1. 例会変更通知

- ・ 郡城北RC 3月17日 19:00～
- ・ 宮崎西RC 3月20日休会(春分の日)
- ・ 宮崎北RC 3月25日 7:00
宮崎神宮東神苑「友愛の広場」
- ・ 郡城西RC 3月25日 12:30～
ブルーハウス(職場訪問)
- ・ 日向RC 3月26日 12:30～
九州電力日向営業所(職・訪)
- ・ 日向東RC 3月31日 12:30～
仏舎利塔(観桜会)

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	18名
欠 席 者 数	3名
H C 出 席 者 数	15名
出 席 率	83.33%
欠 席 者 名	岩切壽・郡司・井下

ビ ジ タ ー

西都RC 阿万 英也君
" 福本 博君
" 田中 禧行君

親睦委員会より 委員長 齊藤 敦馬

1. 4月3日(金)19:00より宝塔山公園で観桜例会を開きます。次の例会(3月27日)までに出席を知らせてください。
2. 3月親善ゴルフコンペは、4月22日(木)の宮崎市郡6RC合同ゴルフコンペと兼ねて行います。参加ご希望の方は私にご連絡ください。

会員卓話 正岡文郁君

はじめに、私は本年度の会員増強委員長でありながら、雑事にとりまぎれまして、なかなか責を全うすることができないことを本当に申し訳なく思っております。今後とも会員増強につきまして皆様のご協力をお願い申し上げます。

さて、私は住職でありますので、本日は通仏教の立場から大まかにお話ししたいと思います。仏教というのは、皆様ご承知のとおり、お釈迦様の教えということになりますが、仏教を要約いたしますと、「七仏通戒偈」(七仏とは、毘婆尸仏・尸棄仏・毘舍浮仏・拘留孫仏・拘那含牟尼仏・迦葉仏・釈迦牟尼仏)といまして過去七仏が共通して受持しているといわれる釈尊の戒めの偈であります。これは次のたった四行の句から成っています。

- ① 諸悪莫作 (諸々の悪をなすこと勿れ)
- ② 諸善奉行 (諸々の善を奉行せよ)
- ③ 自淨其意 (自らその心を清くする)
- ④ 是諸仏教 (これ諸仏の教えなり)

ただこれだけで、仏教の教えは決して難しいものではありません。しかし、言うは易く、行うは難し、とか、医者の不養生、坊主の無信心とか昔から言われております。たとえば、大工の家や量が痛んでいるということは、実は自分

のところまで手が回らない、というのが実情ではないかと思うのです。

ここで目を転じて、世界の三大宗教についてふれてみましょう。仏教、キリスト教及び回教(イスラム教)の三つの宗教がそれです。

当地は神道が多いようです。明治政府が排仏毀釈を行い、軍と結託して国家神道を樹立しようとしたのです。九州では宮崎、鹿児島両県で主に行われました。明治の頃までは佐土原にも30余りの寺がありましたが、現在では7寺です。仏教、キリスト教、回教にはそれぞれ教義がありますが、神道には教義はなく、思想はあると思います。

私どもの宗旨の教義をわかり易く申しますと、「私ども自身が仏であることを固く信じ、座禅に励み、本当の自分に目覚め、どんな苦難にもくじけず、常に脚下を照顧(ミツメ)で暮らしを正し、生かされている自分を感謝し、世の為、人の為に尽くしましょう。」これが私どもの教義です。

仏教は、先きほども申し上げましたが、お釈迦様の教えであります。釈尊がインドで開かれた仏教は、中国に渡り、そして朝鮮半島から日本、それから現在ではアメリカにも渡米しております。これを私どもは「仏教東漸」と言っています。仏教文化のもたらした影響は非常に大きいと言われます。ワビ・サビの茶道、華道等「道」と名のつくものは、殆ど仏教に関係があります。また、お茶とかタクアンとか、建長汁(野菜の切端を捨てずに、小さく刻んで醤油で味つけしたもの)、国清汁(同じ味噌で味つけしたもの)など、何気なくしていることや、何気なく使っている言葉にも、仏教文化から入ってきているものが多いということです。

我田引水になるかも知れませんが、私はこの三大宗教の中で、仏教が一番すばらしいと思っています。たとえば、仏教とキリスト教の違いを考えてみますと、仏教では仏様と私共は全く同じ業質を持っているけれども、私達は仏様ほど修業していないから、少しでも仏様に近づく

ように努力しましょう、と説いています。

ところが、キリスト教では、天に在します神様と、その下僕である私達は違う、別個のものであると教えています。

この頃は、仏教とキリスト教の交流を図るため、特に日本とヨーロッパ間で、住職と神父あるいは牧師との交流を深める動きがあります。

私事ですが、神戸の道場時代に、アメリカ人ドイツ人、フランス人、スイス人、イタリー人中国人、韓国人が修業に来ておられました。非常に真面目な方ばかりで、本当にやる気であって修業しておりました。それらの人達は帰国後禅堂で一般の人の坐禅の指導をしています。今日では、日本よりもアメリカの方がむしろ仏教が盛んではないかと言われております。

3月と9月は、春分の日、秋分の日それぞれ1週間以内を「彼岸」という週間が設けられています。お互いに先祖を敬い、国を挙げて祝っているわけです。彼岸に対して、私どもの住んでいるところを此岸と言います。このどろどろとした此岸から彼岸へ行くためにはどうすればよいか、を教えている言葉があります。

六波羅蜜と言いますが、簡単に申し上げますと、次のとおりです。

1. 布施 (財施、法施(真理を教える)、無畏施(恐怖を取り除いて、安心を与える))
2. 持戒 (戒律を守ること、自己を常に反省すること)
3. 忍辱 (迫害等に耐え忍ぶこと)
4. 精進 (他の五徳目を実践し続けること)
5. 禅定 (心を安定させること)
6. 智慧 (命そのものを把握すること)

いずれも、前述しました「七仏通戒偈」に尽きると考えます。

本山では、生活信条というものを掲げています。

1. 一日一度は静かに坐って、身と呼吸と心を調えましょう。
1. 人間の尊さに目覚め、自分の生活も他人の

生活も大切にしましょう。

1. 生かされている自分に感謝し報恩の行を積みましょう。

これこそロータリー精神に通じるし、そのものであると思います。

先日、宮崎大学工学部の学生で西都市居住の方が父親と一緒に来られまして、相談があると聞かれました。話を聞いてみますと、自分というものがどうもうまくいかない、ということでした。私は、自分というものをしっかり見つめ直して、1日1度は坐るということを勧めました。人間一度は迷った方がよいと思います。そこから自らの真の道を見つけていくことが大事なのです。病いは自らで治すものである、医師はあくまでその手助けをするに過ぎないのであります。山田管長は、「禅は調えるの一語に尽きる」とおっしゃっていますが、まさにそのとおりだと思います。その学生は、自分をしっかり把握するために、最近坐禅に来ています。

皆様はお忙しい方ばかりでございますが、七仏通戒偈「言うは易く、行は難し」、お忙しい人ほど坐禅は大事だと思います。どうぞいつでもお出でください。そして、己れというものをしっかり見極めていただきたいと思います。

健康に留意されて、お互いそれぞれの道でお励みください。 合掌

宗教について、特に仏教のルーツ、教義、坐禅等について、これまで知らなかったことを微に入り細に渡りお話ししていただき、大変感動を覚えました。と共に、明日からの心身の修養に一段とはずみがつくものと確信いたします。本日はどうもありがとうございました。

(会長コメント)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
日南市でのI. M. で、佐土原ロータリー・クラブの「ビジター賞」が脚光を浴びました。発言していただいた西都ロータリー・クラブの方に、PR賞でも差し上げたい気持です。

(I. M. 出席者一同)